

【英語】 <中学校 第2学年>

1 結果のポイント

- 「聞くこと」について、短い英文を聞いて、その英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力をみる問題の正答率がほぼ90%を上回っている。
- 他方、問いかげから相手の尋ねたい内容を正しく理解して、適切に応答する力をみる問題では、正答率が60%程度のももある。
- 「読むこと」について、いくつかの情報を整理して正しく理解したり、場面に応じて適切な応答を選択したり会話を完成したりする力をみる問題の正答率がほぼ70%を上回っている。
- 他方、大まかな内容や大切な部分を読み取ったり、会話の流れを理解して、適切な応答を選択したり会話を完成したりする力をみる問題では、正答率が50%を下回っているものもある。
- 「書くこと」について、英文の構造を理解して正しい語順で書く力をみる問題の正答率が、60%を上回っているものがある。
- 他方、伝えたい内容が正しく伝わるように適切な表現を用いて書く力や、一つの話題について、読み手を意識しながらまとまりのある英文を書く力をみる問題では、正答率が50%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 問いかげに対して適切に応答する力をみる問題の例

<問題> ①の2 (テープ問題)

次のように英語で話しかけられたとき、どのように答えますか。応答として最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。話しかけは2回くり返して言います。

2

(放送文) 2 I need my pen. But I don't have it. Do you have a red pen?

ア Sorry, I'm using it. イ No, I didn't. ウ I think so, too. エ How about you?

<結果> ①の2 正答率 57.8% (正答…ア)

<分析>

この問題は、英語で問いかげられている内容を正しく聞き取り、それに対して適切に応答する力をみるものである。①の2は、正答率が60%を下回っており、力が十分に身に付いているとはいえない。誤答の中では、No, I didn't.を選択したものが多く、Do you...?に対して、話し手の意向を理解した適切な応答よりも、Yes / No といった言語形式による応答の仕方が優先されていたと考えられる。また、①の1は、I will help you. の投げかけに対し、Thank you. という応答を選択する問題であるが、この正答率も60%を下回っている。誤答の中では、Yes, I will.を選択したものが多く、will を含んだ英文で話しかけられているので、言語形式による応答を優先し、will を含んだ応答文を選択したのものと考えられる。









(2) くわしい内容を読み取る力をみる問題

<問題> ④の3

次の1～3の問いについて、それぞれの英文を読み、答えとして適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。

3 ケイコ (Keiko) は、次の土曜日どのように過ごすでしょうか。

Nancy : What will you do next Saturday?
 Keiko : Well, I don't know. But I have a lot of homework. Do you have any ideas?
 Nancy : Yes, I'm going to go to a festival in the afternoon. Will you come with me?
 You can enjoy a concert.
 Keiko : That's a nice idea. I will do my homework at home in the morning.

ア 午前 	イ 午前 	ウ 午前 	エ 午後 
イ 午後 	ウ 午後 	エ 午前 	エ 午後 

<結果> 4 の3 正答率 83.1% (正答…イ)

<分析>

この問題は、ある程度まとまりのある対話文を読んで、くわしい内容を正しく読み取る力をみるものである。a festival in the afternoon, enjoy a concert, That's a nice idea, do my homework at home in the afternoon から、ケイコが午前には宿題をするつもりであること、フェスティバルに行くのは午後であること、フェスティバルではコンサートが開かれることを正しく読み取ることで、「イ」を選ぶことができたと考えられる。同じ4の1と2についても、前年と同様にそれぞれ正答率が90%を上回っていることから、この力は確実に定着していると考えられる。

また、「読むこと」と「聞くこと」の違いはあるが、くわしい内容を理解する力という点では、2は本問と関連している。2は3問の正答率の平均が85%を超え、絵などを手がかりにしてくわしい内容を正しく理解する力は「聞くこと」に関しても十分身に付いているといえる。

(3) 話の要点を読み取る力をみる問題の例

<問題> 5の1

次の英文はケン (Ken) が、「自分の夢」というテーマで書いたスピーチの原稿です。よく読んで、後の1～3の問いの答えとして最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。

1 ケンの将来の夢として述べられていることは何ですか。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ア 日本ですぐれた野球選手を育てること。 | イ アメリカで野球の選手になること。 |
| ウ アメリカで野球関係の仕事に就くこと。 | エ 日本で野球の選手になること。 |

<結果> 5の1 正答率 38.9% (正答…ウ)

<分析>

この問題は、ある程度まとまりのある英文を読み、大まかな内容や大切な部分を読み取ることができる力をみる問題である。5の正答率は、2が70%を超えているものの、1と3は50%を下回っており、力が十分に身に付いているとはいえない。5の1では、I really want to work with baseball players in America.や I want to live in America and help baseball players from Japan.等を基に、問われている内容について英文全体から総合的に読み取ることができなかつたことが誤答の原因であると思われる。書き手が伝えようとしていること等を複数の英文を読んで総合的に判断したり、英文の前後関係に留意して読み取ったりする力を身に付けることができるようにすることが必要である。

(4) まとまりのある英文を書く力をみる問題の例

<問題> 8

あなたは、アメリカにいるペンフレンドに、この前の冬休みにどのように過ごしたのかを紹介することにしました。旅行したこと、経験したこと、毎日続けたことなど、紹介する話題を一つ考え、感想も交えてまとまりのある3文以上の英文で原稿を書きなさい。

ただし、最初の文は In my winter vacation...を書き出しとして始めなさい。なお、In my winter vacation...で始まる英文も1文として数えます。

<結果> 8 正答率 34.5%

<分析>

この問題は、身近な話題について、書くべき内容を自分で考え、読み手に正しく伝わるようまとまりのある英文を書く力をみるものである。解答には、紹介する話題を一つにしぼり、内容のつながりを考えた英文が前年度よりも多くみられた。また、無解答は前年度よりも減少しており、「書くこと」に対する意欲が高まりつつあると考えられる。

しかし、正答率は40%を下回っており、十分に力が身に付いているとはいえない。誤答として、冬休みにあった事実(「どこへ」「誰と」「何を」等)が明確に示されていないものが多かったことから、事実が十分に伝わるよう必要な情報を落とさずに書く力を付けることが大切である。また、「主語がない」「語順が間違っている」といった読み手に内容が伝わらない誤答も多くみら

れた。9や10でも同様の傾向がみられることから、「書くこと」についての意欲を高める指導とともに、「内容が伝わるように正しく英文を書く力」「正しい語順で英文を書く力」を付ける指導も大切にしていきたい。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・指導計画の作成に当たっては、3年間を通じて、各領域の指導事項が系統的・発展的に指導できるように改善を図りたい。そのために、3年間を見通した領域別の活動の系統図（重点とする活動のねらいと活動内容を明記したもの）を作成してみることもたいへん有効である。それを基に特に、「読むこと」「書くこと」の指導事項が、段階的に指導できるような計画になっているか見直しを図ることが大切である。
- ・「読むこと」について、大まかな内容を読み取る力を身に付けることができるように、ある程度のまとまった分量の英文を読む活動を計画的に位置付けたい。そこで、「読むこと」の指導事項を重点とする単元において、単元終末に教科書題材以外の英文を扱って指導目標の達成状況を把握したり、指導目標をより達成するために、単位時間の中で教科書題材と並行してそれ以外の英文を扱うなどの工夫をしたい。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「聞くこと」について、言語形式によらないで話し手の意向に応じた柔軟な応答ができる力を付けることが大切である。そこで、教科書題材の対話の中で扱われる、言語形式によらない応答に着目し、相手の英語を聞き取り、その場の状況から何が自分に求められているのかを理解して応答することの大切さを指導したい。その上で、教科書題材を繰り返し音読するだけでなく、話し手の意図をつかみ、一つの話しかけにいろいろな表現で応答する練習をペアとするなどの指導を工夫したい。また、活動を行う際には、話し手も聞き手もこれから行う言語活動の具体的な場面や状況を十分に理解した上で、実施することが大切である。
- ・「読むこと」について、ある程度まとまりのある英文を読み、大まかな内容や大切な部分を読み取る力を付けることが大切である。そこで、授業において、「筆者は、何について述べているだろうか」「どのようなことが話題になっている会話だろうか」といった読み取りの課題を与えてから英文を読むようにする指導や、段落ごとにまとまりのある英文の内容を読み取る指導を行っていききたい。また、まとまりのある英文を読んだ後、その英文の概要を表す短いタイトルを付けたり、段落ごとにばらばらにした英文を与え、全体として意味が通るようにそれらを並びかえたりといった活動を工夫していききたい。
- ・「書くこと」について、まとまりのある英文を書く力を身に付けることが大切である。そこで、まとまりのある英文の構成（「伝えたい話題のことを書く」「話題についての例や理由などを付け加えて書く」「まとめを書く」）について指導する必要がある。また、生徒が書くことができるように、話題について書く内容（「知っている事実を書く」「経験を書く」「感想を書く」「理由を書く」「例を示す」「5W1Hを意識しながら書く」等）の指導も計画的に行っていききたい。さらに、いろいろなトピックを準備し、それについて自分の考えを書くようにすることも大切である。
- ・「書くこと」以外の他の領域の指導事項が中心となる単元においても、「書くこと」の指導を継続的に行うことが大切である。そこで、「夏休みの体験について話した英語を、授業の終末で書きとめる」「教科書に書かれている内容について読み取ったことを2～3行で書きまとめる」といった他の領域の活動と関連させながら「書くこと」の活動を行うようにしたい。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・言語形式によらない柔軟な応答ができるようにするために、ALTを積極的に活用したい。ALTと教師が言語形式によらないやりとりをモデルとして意図的に示したり、ALTが生徒一人一人に問かける場面を積極的に設けたりして、言語形式によらない場面に応じた応答を実際に数多く体験できるようにしていきたい。
- ・まとまった分量の英文を読み取る力を身に付けさせるために、図書館や少人数指導教室に英語の絵本や英字新聞を置くなどの環境整備をし、授業時間以外でも英語の読み物にふれる機会をつくらせていきたい。